

# ことばの学び

a new way of learning Japanese

『小学生の国語』臨時増刊号

特集 読みの力を高める

学習指導 vol.1

## 読みの力を高める学習指導

今、求められている「読みの力」は、文章を正確に理解するだけでなく、読み取ったことをもとに考えたり表現したりすることにつながる力です。

そういった力をつけるため、子どもたちの実態に応じ、教材文の特質を生かした学習指導の開発が必要とされています。

『小学生の国語』では、それぞれの学年の発達段階に即して、子どもたちを知的に刺激し、楽しく力のつく学習指導に適した教材を配列しています。

今回は、『小学生の国語』の「読むこと」の教材の中から、一年「あいしているから」、三年「身ぶりのほらたき」、五年「洪庵のたいまつ」の三教材を紹介し、読みの力を高めるための具体的な手立てをご提案します。教材・授業研究、ご実践にご活用いただければ幸いです。

## 目次

### 「あいしているから」

1年 物語

一年生だからこそ音読を生かした指導を  
— 会話文と繰り返しの描写がある物語 —

…… 2

### 「身ぶりのほらたき」

3年 説明文

説明文の読みに必要な再現や実感  
— 子どもたちにとって本当に身近な話題 —

…… 4

### 「洪庵のたいまつ」

5年 伝記

伝記教材における作者の位置づけ  
— 司馬遼太郎の描く伝記 —

…… 6



# あいしているから

1下  
4ページ

## 一年生だからこそ音読を生かした指導を — 会話文と繰り返し返しの描写がある物語 —

### 1 一年生が気づく繰り返し返しの言葉

「だって、あいして いるんだもん。」

一下の教材「あいしているから」の印象的な文である。この文は、物語の中で二度語られる。同じ言葉を繰り返し返して、場面や文脈による違いが描かれている教科書教材は、多くはない。ここに、ポイントがある。

同じ言葉を音読する際には、指摘をしなれば、子どもたちは同じように読むだろう。そこで、「本当に同じでいいのか」と問えば、子どもたちは繰り返し返された言葉の意味の違いに着目することになる。つまり、「どのように声に出して読むか」という表現に対する課題が、物語の読み取りにつながるのである。

### 2 教材の特徴

本教材の物語は、主人公モールくんがひなどりを見つけ、檻の中で飼うところから始まる。おじいちゃんが行った丘で風に吹かれ、空を自由に飛ぶ鳥の存在や飛び回る楽しさを

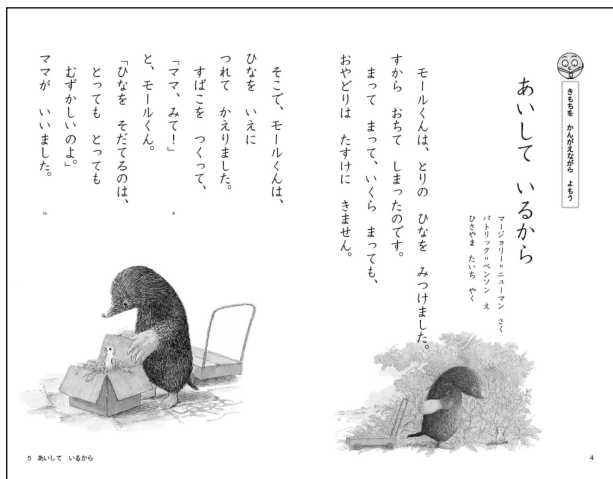
実感したことから、成長したひなを自分で檻から放してあげるお話である。

展開は、主人公の行動に沿っている。また、多くの会話文の後には、誰の言葉であるかが書かれているため、登場人物の関わり合いも捉えやすい。さらに、山場から結末に至る主人公の心情は、決意や葛藤、哀愁が漂う複雑なものである。子どもたちには、こどりを思いやるモールくんのあたたかい心情を感じさせたい。

### 3 音読を生かした指導

本教材の学習価値を最大限に生かすためには、音読が不可欠である。一年生の教室では、読むことの学習として、音読に力点が置かれる。物語に親しむきっかけであり、声を鍛える意味でも重要なことである。

「音読指導」と「音読を生かした指導」は異なる。前者は、学習指導要領に示される指導事項Aに関する指導である。後者は、読み深めるために音読という言語活動を行う。音読を



生かした指導は、音読というどの子にでもできる言語活動だからこそ大きな効果を発揮する。ただし、物語の構造や表現に左右される。具体的には、会話文と繰り返し返しの描写である。本教材は、その要件を十分に満たしている。

#### 4 会話文に絞った教材文の提示

会話文は、登場人物に同化することによって音読が変化する顕著なものである。さらに本教材は、会話文を読むことで大体の展開や登場人物の心情を想像することができ、物語である。したがって、全ての叙述を全体で取り上げる必要はない。会話文を意図的に選んで提示する。提示された会話文に、説明を加え、想像を生みだすのは子どもたちである。会話文を短冊で提示するだけで、次の二つの学習をしかけることができる。

○だれの言葉かな？

ア 「とびたとうと して いるのよ。」

イ 「はなして やらなきゃ。」

ウ 「いやだ！」

エ 「ぼうや、さんぽに いこうか」

ママ・パパ・モールくん・おじいちゃんの四人の会話文である。本教材では、それぞれの人物の登場場面が見事に分かれる。前半にママ・パパ、後半におじいちゃん、全体を通してモールくんである。子どもたちは会話の主を探すだけで、場面の大きな状況もつかんでしまう。

さらに、これらの会話文は、ことりの飼育

に対する立場の表明にもなっている。アとイが同じ考えであること、ウが反対意見であること、エのおじいちゃんの言葉が異質であることもわかる。

○お話の順番は？

モールくんの会話文に着目すると、ことりに対する気持ちが表れていることがわかる。

ア 「とりって、それを とぶ もんなんだ。」

イ 「ぼくの ことりは、しんだり しないよ。」

ウ 「ぼくの ベットだ。」

正しい順番はイ・ウ・ア。モールくんは同じことりを見ながら、「ぼくのことり」「ぼくのベット」「とり」というように、言葉を変えていく。短冊を並べ替えるときの子どものちの説明は、モールくんのことりに対する考えの変化を語る。指導者は子どもたちが語る説明を板書に整理することで、全体を通した主人公の変化をまとめることができる。

そして、主人公の変化を振り返りながら、読み取ったことを音読で表すことができる。

#### 5 対比による心情の焦点化

ア だって、 あいして いるんだもん。

イ だって、 あいして いるんだもん。

展開部と結末部で語られるこの二つの文は、会話文ではない。いずれもモールくんの視点に立った語り手の言葉として書かれている。アは、ことりを手放したくない一心が込められた愛着の言葉、イは、一緒にいたいながらもことりの自由や幸せを願う葛藤や哀愁を含んだ言葉である。イにおけるモールくんの心情を、一年生が自分でまとめることなどできない。だからこそ、この二つの文は、続けて音読させることで、対比的な構造が明らかになる。

○どんなふうを読む？

「どんなふうを読む？」というシンプルな発問が、物語の核心に迫る読みを生み出す。音読の工夫を問えば、子どもたちは、前後のモールくんの行動の違いを説明することになる。

一年生の言葉では表しきれないモールくんの心情は、音読を通して味わいに変わる。

#### 6 終わりに

一年生が物語に親しむために、どのような指導の工夫がなされているだろうか。代表的なものとして、動作化や劇化を挙げることができる。「音読を生かした指導」も同じ効果をもっている。

# 身ぶりのはたらき

## 説明文の読みに必要な再現や実感 —— 子どもたちにとって本当に身近な話題 ——

### 1 生活の中の気づきを生む説明文

授業の中でこそ、子どもたちの好奇心をくすぐるような文章を扱いたい。説明文の魅力は、なんととっても未知の情報を発信してくれるところだろう。未知の情報の中には、子どもたちにとって身近な話題もある。見過ごしていたことについて説明されると、改めてその価値に気づかされる。生活の中にある気づきである。子どもたちにとっては、説明文を読んで知ったことや気づいたことが生活の中で体験・実感できる貴重な機会になる。

「身ぶりのはたらき」は、まさにその典型といえる。身ぶりという誰でも日常的に行うことを話題にしている。さらに言えば、身ぶりは教室で実際に行えるほど、身近な行為である。

### 2 教材の特徴

ふだん、身ぶりを意識して使っている子どもたちは少ない。本教材は、子どもたちが気

づかないうちに使っている身ぶりの効果について述べた文章である。身ぶりの効果を知った子どもたちは、読んだ直後からさまざまな身ぶりを使い始める。

文章の構成は、「はじめ」・「中」・「終わり」がはっきりしている。「中」の部分は、三つに分けることができる。三つは、「言葉の代わりをする」「言葉で表せないことを示す」「言葉と一緒に気持を深く伝える」という身ぶりの効果について述べた事例である。

それぞれの事例の最後の一文は、「これらの身ぶりは、○○というはたらきをしています」という文でまとめられている。意図的に同じ述べ方が使われており、子どもたちが三つの事例に小見出しをつける学習が展開できる。

また、それぞれの事例には図が提示しており、「図1のように」と文章に組み込まれている。図と文章との関係がわかりやすく、三年生に適した資料の読み取りの学習をすることができ

読んで、再現された身ぶり

### 身ぶりのはたらき

みなさんは、家族や友だち、先生たちと、毎日、どのようにして気持ちを考えをつたえていますか。言葉でつたえているときも考えが伝わりますが、身ぶりも、気持ちを考えをつたえる大切なはたらきをしています。

では、身ぶりがどんなはたらきをしているのか、考えてみましょう。遠くから、あなたの名前をよぶあなたの声が聞こえてきました。よばれているのが自分かどうかわかたないとき、みなさんならどう

①  
しませんが、図1のように、自分の名前をよびながら歩いてきます。このとき、図2のように、手をのびて挨拶をします。これは、相手の人が遠くにいる、声がとどきにくい場面です。

②  
図3は、図4のように、自分の名前をよびながら歩いてきます。このとき、図5のように、手をのびて挨拶をします。これは、相手の人が遠くにいる、声がとどきにくい場面です。



### 3 動作化の効果

動作化は、文学的文章を扱う指導で行われることが多い。動作化は、読むという内的な活動を視覚化できる有効な指導方法である。

しかし、説明的文章の指導において動作化

を取り入れている授業は少ない。動作化をするには、説明されている話題が子どもたちの生活の中にある必要があるからである。身ぶりという再現可能な話題は貴重であり、動作化の効果を発揮できる数少ない説明文である。

#### 4 問いかかけの文の効果

本教材には、「さか」のように問いかける文が十か所ある。問いかかけの文を効果的に扱うことで、次のような学習が展開できる。その際、先に述べた動作化がポイントとなる。

##### ○問いかかけに答える

十の問いかかけに答えることで、文章の大体をつかむことができる。さらに、文章についての自分の考えをもつことができる。問いに答える場面では、必ず問われる状況や身ぶりを動作化し、実感とともに考えていく。

第一時において、範読の後、問いかかけに答える時間を設ければ、子どもたちが文章全体をとらえた状態で、学習を進めることができる。

##### ○問いかかけの違いを考える

十の問いかかけは、二種類のグループに分けることができる。

次の「ア」と「イ」は、「言葉の代わりをする」「身ぶりのほたらきについての事例の文である。

「ア」よばれているのが自分かどうかたしかめたいとき、みなさんならどうしますか。

「イ」図1のように、自分の鼻を人さし指でさすという身ぶりをするのではないでしょう。

「ア」は、次の行動を尋ねている。「イ」は、身ぶりを限定し了解を求めている。「イ」が事例のまともにつながっていく。「ア」と「イ」の違いから、「イ」の文の役割をとらえることができる。他の事例でも同じような構成で説明が述べられている。一つの事例を全体で読み取れば、他の事例は自分で読み取ることができる。

##### ○構成を考える 1

問いかかけの違いに気づくことで、文章構成を考える学習につなげることができる。次の文は文章の冒頭の一文である。

「ウ」みなさんは、家族や友だち、先生たちと、毎日、どのようにして気持ちや考えをつたえ合っていますか。

「ウ」は、先ほどの例で二種類に分けると「ア」と同じグループに分類される。文章を三つに分けたとき、「はじめ」には、「ア」と同じグループに属する問いかかけしかない。「なぜ」「イ」のグループに入る問いかかけがないのか？」を考えることで、「はじめ」の役割がわかってくる。

○構成を考える 2

十の問いかかけの文は、「はじめ」「中」で述べられ、「終わり」にはない。問いかかけの文の位置に気づかせれば、「なぜ」「終わり」には、問いかかけの文がないのか」という発問ができる。子どもたちは、その理由として、「終わり」の役割や性質を語ることになる。

#### 5 中学年に味わわせたい説明文のおもしろさ

「身ぶりのほたらき」は、問いかかけられたことを動作化によって再現しながら実感できるところに、最大の教材的価値がある。四年の説明文教材「じゃんけんの仕組み」も、同様の特性をもっている。子どもたちが日常的に行うじゃんけんのしくみについて、方法や勝敗確率の検証などを通して述べている。

中学年の子どもたちは、複数の事例を挙げた説明文を読む。事例が生活の中にあるものならば、読んだことが自分の生活に新しい発見をもたらす。文章を読むことのおもしろさを実感し、読書の幅を広げてもらいたい。

# 洪庵のたいまつ

## 伝記教材における作者の位置づけ —— 司馬遼太郎の描く伝記 ——

### 1 伝記を扱った教材に求められるもの

先人に対する憧れの高揚は、伝記を読む醍醐味である。しかし、伝記を教材として扱う場合、直感的な感想や称賛だけでは読むことの学習とはいえない。また、伝記を教材として扱うからには、「伝記を読む」だけでなく、「伝記の読み方を身につける学習」「伝記を読んで考える学習」でなければならぬ。

そのためには、伝記から読み取ること、子どもたちが考えることを、焦点化して指導する必要がある。

### 2 伝記から読み取る「作者の考え」

伝記の叙述は、主に「人物についての描写」「事実の説明」「作者の考え」に分けることができる。

特に、「作者の考え」は、伝記教材の大きな特徴である。人物の生き方や業績に対する作者の価値づけが述べられた叙述といえる。

学習指導要領では、高学年において、「伝記

を読み、自分を見つめ直し、生き方を考える」

ことが求められている。そのためには、まず描かれた人物の生き方を読み取らなければならない。ここで「作者の考え」の読み取りのポイントとなる。

次の二つの発問の違いに注目したい。

A 伝記に描かれた人物の生き方についてどう考えますか？

B 作者は伝記に描いた人物の生き方についてどう考えていますか？

Aは、先に引用した学習指導要領の言葉を発問のかたちにしたものである。生き方という非常に抽象的な概念について、直接考えさせる発問になっている。

Bは、「作者の考え」についての問いである。作者の価値づけについて意見をもつことが、「生き方」を考える第一歩である。つまり、Aを問うためには、Bの問いに答えられる指導を行っていないなければならない。



### 3 教材の特徴

「洪庵のたいまつ」は、緒方洪庵の生涯について描かれている。数多くの歴史小説を手がけた司馬遼太郎が、教科書のために書き下ろした文章である。

伝記は、描かれる人物の視点と作者の視点が混在する場合が多い。本作は、全文を通して作者の視点で語られている。「作者の考え」を読み取るために手がかりとなるのは、作者の視点である。

また、冒頭や結びには、作者の緒方洪庵の生き方に対する価値づけ、つまり「作者の考え」が明確に述べられている。

五年生でも、学級の全員が作者の視点を意識し、「作者の考え」を読み取ることができ教材といえる。

#### 4 「作者の考え」をもとにした指導展開

○「司馬遼太郎の考え」を読み取る  
次の二つの文を提示する。

[ア] 世のためにつくした人の一生ほど、美しいものはない。(112 ページ 1 行目) [イ] かれの偉大さは、自分の火を、弟子たちの一人一人に移し続けたことである。 (122 ページ 11 行目)
---

「[ア]と[イ]は、誰が語っているでしょう?」「司馬遼太郎が語っていない言葉はありますか?」

という発問で、作者の視点が確認できる。同時に、[ア]と[イ]の文について考えることで、

「作者の考え」をとらえることができる。その根拠は、さまざまな緒方洪庵のエピソードから子どもたちが価値づけることができる。

○司馬遼太郎の考えと自分の考えを比較する  
次の文は、文章の最後の一文である。

[ウ] 後世のわたしたちは、洪庵に感謝しなければならぬ。(122 ページ 14 行目)
---

「洪庵のたいまつ」では、緒方洪庵の業績に対して、他者への影響を最大の価値として描いている。だからこそ、[ウ]のような文がある。ただし、先に提示した[ア]・[イ]とは、大きく異なる。三つの文を比べることで、[ウ]が読者に訴えかける文であることに気づく。子どもたちに対して[ア]・[イ]について自分の考えを求めても、答えは決まっている。自分たちに訴えかけられている[ウ]について考えることで、司馬遼太郎に答える「自分の考え」ができる。

#### 5 伝記教材を生かした読書活動

伝記を扱う際には、教材を読んだ後、自分が興味のある人物を選び、その人物の伝記を読む活動を設定する場合が多い。その際は、主教材となんらかのつながりがある人物を選

ぶ必要がある。

本教材であれば、洪庵の次の時代を生きた人物を読むことが挙げられる。洪庵の功績「たいまつ」を受け継いだ人物を知る機会になる。本文では「大村益次郎」「福沢諭吉」が挙げられている。伝記の続きを読むとも言える魅力的な読書活動になる。

さらに、作者が司馬遼太郎であれば、当然他の作品に読書活動を広げることができる。

その場合、ただ読むのでは伝記を読んだ学びが生かされない。伝記は人物を描いた文章であるという特徴を生かしたい。「司馬遼太郎の描く人物を読もう」と題した読書が始まる。

#### 6 伝記教材の系統的な学習

伝記を扱う学習は高学年に限られている。五年で扱うのか、六年で扱うのか、その両方で扱うのか、大きな問題である。

三省堂の教科書においては、五年・六年、ともに伝記が教材として掲載されている。二学年の段階を明確にすることで、伝記を系統的な教材として扱うことができる。

五年で伝記の読み方を習得する。だからこそ、六年では、習得した読み方を生かして「自分の生き方」について考えることができる。

三省堂『小学生の国語』「読むこと」の教材一覧

	説明文		物語	
	教材名	筆者	教材名	作者
1年	しっぽしっぽ ぼうしのはたらき なにができるかな	堀浩 横矢真理 中村智彦	にくをくわえたいぬ どうぞのいす おおきなかぶ あいしているから いなばの白ウサギ 夕日のしずく	川崎洋 香山美子 A・トルストイ M・ニューマン 宮川ひろ あまんきみこ
2年	つばめのすだち たねのたび 紙パックで、こまを作るう	本若博次 中西弘樹 今井美佐	たろうのともだち お手紙 ぎつねのおきやくさま かさこじぞう フレデリック	村山桂子 A・ローベル あまんきみこ 岩崎京子 L・レオニ
3年	米と麦 「農業」をする魚 身ぶりはたらき	吉田久 新田末広 東山安子	ピータイルねこ うさぎのさいばん わすれられないおくり物 おにたのぼうし	岡田淳 キム・セシル S・バーレイ あまんきみこ
4年	打ち上げ花火のひみつ 月のかけ絵 じゃんけんの仕組み	冨木一馬 藤井旭 加藤良平	白いぼうし いわたくんちのおばあちゃん ごんぎつね あたまにつまった石ころが	あまんきみこ 天野夏美 新美南吉 C・O・ハースト
5年	「十秒」が命を守る 動物の「言葉」 人間の「言葉」 コウノトリが教えてくれた	松森敏幸 池上嘉彦 池田啓	カニモトくん 競走 洪庵のたいまつ 大造じいさんとガン	ときありえ 佐藤雅彦 司馬遼太郎 椋鳩十
6年	宇宙時代を生きる 「なべ」の国、日本 猿橋勝子 二十一世紀に生きる君たちへ	野口聡一 渡辺あきこ 堀切和雅 司馬遼太郎	竜 紅鯉 まほう使いのチョコレート・ケーキ 雪わたり	今江祥智 丘修三 M・マーヒー 宮沢賢治

三省堂 国語教育

ことばの学び

a new way of learning Japanese

『小学生の国語』臨時増刊号  
特集 読みの力を高める学習指導 vol.1

2013年12月15日発行

- 編集・発行人 北口克彦
- 発行所 株式会社 三省堂  
〒101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14  
TEL 03(3230)9410 [編集] 9551 [営業]  
URL <http://www.sanseido-publ.co.jp/>

